

宗麟大橋



発注者 大分県 大分土木事務所

形式 鋼6径間連続非合成鈹桁橋

橋長 349.900m（道路中心線上）（支間割：57.250m + 4@58.250m + 57.250m）

有効幅員 11.25m×2（車道）+3.50m×2（歩道）（標準部）

鋼材質量 2,828 t

架設工法 手延べ式送出し工法とベント工法の併用

完工 平成29年3月

特徴

- ・都市計画道路『庄の原佐野線』は、東九州自動車道と都市内道路と一体的に機能し地域間の連携と都市活動の活性化を目的に計画された。本路線の整備により、交通渋滞の緩和や高速道路へのアクセスも強化され、さらには災害時の緊急輸送道路の役割が期待される。本橋は大分川河口部に位置する主要な橋梁である。
- ・桁の架設は、河川部を手延べ式送出し工法で施工した後、右岸左岸の河川敷上は200tトラッククレーンを使用したベント工法で行った。
- ・渇水期2期（H27.10～H28.5、H28.10～H29.3）のみでの施工であり、ヤード造成から桁架設工、および床版工までを行なう非常に厳しい工程であったが、平成29年3月に工期内に竣工した。